



The influence of global, country and firm-level governance on social and environmental reporting: Evidence from developing countries

Md. Shahid Ullah

(Degree)

博士 (経営学)

(Date of Degree)

2020-03-25

(Date of Publication)

2021-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第7685号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007685>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



論文内容の要旨

学位論文審査要旨

本論文は、発展途上国におけるグローバル、国家、企業という3つのレベルにおけるガバナンスと企業の社会環境報告（social and environmental reporting: SER）の関係について、発展途上国全体を対象にした定量的分析及びバングラデシュを対象とした定性的分析を通じて考察したものである。

第1章では、発展途上国のSERを研究する動機とリサーチエスチョンを述べ、本論文の概要を説明している。

第2章では、研究の背景として、発展途上国とバングラデシュのSERをめぐる状況が説明されている。特にバングラデシュに関しては、歴史的・政治的背景、社会・文化・宗教的背景、経済状況及び規制環境について詳しく論述している。

第3章では、理論的フレームワークとして制度論を議論している。おもにScottの制度論に従いながら、強制的・規範的・文化的プレッシャーとグローバル、国家、企業という3つのレベルを組み合わせた独自の分析フレームワークを構築している。

第4章では、発展途上国のSERとコーポレートガバナンスの関係について先行研究レビューを行い、発展途上国において、グローバルレベルのガバナンス、国家レベルのガバナンス、企業レベルのガバナンスとSERの間には正の関係があるという仮説を導出している。

第5章では、本論文で実施する定量分析及び定性分析のリサーチデザインを説明している。定量分析については、Bloomberg ESG disclosureの評価指標を用いてSERを評価し、2007年から2016年までの期間で、45か国10599社のデータを用いて、OLSを実施する方法を説明している。定性分析については、バングラデシュをリサーチサイトにして、26人の企業関係者、23人の非企業関係者へのインタビュー調査を実施する枠組みを説明している。

第6章では、グローバル、国家、企業レベルのガバナンスがSERにどのように影響を与えるのかについて、回帰分析を行っている。その結果、3つのレベルのガバナンスが、いずれも有意にSERに影響していることが示された。ただし、回帰分析の決定係数から、3つのレベルのガバナンスの中でもグローバルレベルのガバナンスの影響が最も大きいと推定している。また、発展途上国のなかで最大数の中国を除いた分析も行っており、そこでもおおむね仮説は支持されていることが示されている。

氏名 MD. SHAHID ULLAH

論題 The influence of global, country and firm-level governance on social and environmental reporting: Evidence from developing countries
(グローバル、国家、企業レベルのガバナンスが社会環境報告に及ぼす影響－発展途上国を中心として)

審査 令和2年3月

神戸大学

第7章では、また定性的分析では、3つのレベルのガバナンスが発展途上国において、どのように影響を及ぼすのか、またどのような理由で影響を及ぼすのかという点について、バングラデシュにおけるSERが、主に国際的な顧客や資金提供者へのアピール、彼らからの圧力の緩和、国内的、国際的な支持の獲得、ブランド構築、国内外における事業拡大を目的として実施されていることを明らかにしている。他方、国家レベルのガバナンスや企業レベルのガバナンスがSERを促すことに失敗していることを見出している。

第8章では、結論を述べるとともに、プラクティカルインプリケーションと理論的インプリケーションを提示している。

論文審査の結果の要旨

本論文は、発展途上国におけるグローバル、国家、企業という3つのレベルにおけるガバナンスとSERの関係について、制度論のフレームワークの下で、発展途上国全体をサンプルとして定量分析を行い、さらにバングラデシュをリサーチサイトにして定性分析を行った総合的な研究である。本論文は、定量的分析を通じて、3つのレベルのガバナンスが発展途上国におけるSERの取り組みを促すことや3つのガバナンスの中で、グローバルガバナンスによる影響が最も強く認められることを示している。また定性的分析では、3つのレベルのガバナンスが発展途上国において、どのように影響を及ぼすのか、またどのような理由で影響を及ぼすのかという点について、バングラデシュにおけるSERが、主に国際的な顧客や資金提供者へのアピール、彼らからの圧力の緩和、国内的、国際的な支持の獲得、ブランド構築、国内外における事業拡大を目的として実施されていることを明らかにしている。他方、国家レベルのガバナンスや企業レベルのガバナンスがSERを促すことに失敗していることを見出している。

本論文は、定量的分析及び定性的分析から得られた上記のエビデンスに基づき、発展途上国におけるSERが、アカウンタビリティ、透明性、社会的正義に基づいて実施されるよりも、国際的な利害関係者によってもたらされる強制的圧力及び規範的圧力に対処するためのシンボリックなものであると主張しており、十分な学術的価値が認め

られる。その主なポイントは以下の点にまとめられる。

第1に、本論文は、発展途上国におけるSERを研究テーマとして、グローバル、国家、企業の3つのレベルでのガバナンスに焦点を当てた世界で最初の研究として評価できる。今後における地球環境保全に果たす発展途上国の重要性やグローバル化したサプライチェーンにおける発展途上国企業の果たす役割を鑑みれば、3つのレベルでのガバナンスの影響を分析することは重要であり、本論文での考察は、今後のSERをめぐる世界的な動向に大きな示唆を与えるものである。

第2に、本論文は、定量的分析及び定性的分析を有意義に組み合わせながら主張を形成している点を高く評価することができる。定量的分析及び定性的分析は、それぞれ標準的な手続きに基づき実施されている。加えて、定量的分析で得られた知見と定性的分析で得られた知見を有機的に参照しながら考察を行うなど、主張の妥当性や信頼性を高める努力がなされている。特に、定性分析は60ページを超える詳細なもので、インタビュー結果を精緻に分析し、3つのレベルのガバナンスの影響を精緻に分析していると評価できる。

第3に、論文では、今後のSERの発展方向について多くの実践的な示唆が与えられている。特に、発展途上国では国家レベルや企業レベルのガバナンスが形骸化しやすい傾向が示されたことは、今後の政策的な改善課題として重要である。

しかし、本研究にもいくつかの課題が残されている。たとえば、制度論のフレームワークを使用しているが、グローバル、国家、企業レベルのガバナンスが、制度論で想定しているinstitutionとは必ずしも整合的でないとみられる議論が混在していることや、制度論の観点から、採用された変数の妥当性をより深く議論すべきという点などがあげられる。また、3つのレベルのガバナンスの相互関係についても、定量分析及び定性分析では一貫性を欠いている面があり、より深い考察が求められる面もある。しかし、これらの点は今後の課題として検討することが望まれるものであり、本論文の価値を損なうものではない。

以上の理由から、審査委員は、本論文の著者が、博士（経営学）の学位を授与されるに十分な資質を持つものと判断する。

審査委員 主査 教授 國部 克彦

教授 西谷 公孝

教授 梶原 武久

准教授  A. Kudo

教授 隈邊 紀生